

152 いちじくの木を呪う、最後の宮清め(神殿の清め、神殿から商人を追い出す)

マルコによる福音書 11 : 11~18、マタイ 21 : 12~19、ルカ 19 : 45~48→公生涯の最後の宮清め
ヨハネ 2 : 13~22→公生涯の最初の宮清め→参考：ファイル No.024 最初の宮清め

▶いちじくの木を呪う (マルコによる福音書 11 : 11~14) →エルサレムに降る裁きについての預言的行為

11 こうして、イエスはエルサレムに着いて、神殿の境内に入り、辺りの様子を見て回った後、もはや夕方になったので、十二人を連れてベタニアへ出て行かれた (→引き返されました)。



12 翌日 (→月曜日)、一行がベタニアを出るとき、イエスは空腹を覚えられた。

13 そこで、葉の茂ったいちじくの木を遠くから見て、実がなっていないかと近寄られたが、葉のほかは何もなかった。

いちじくの季節ではなかったからである。

→いちじく (無花果) の実は、重要な食物だった。最初の収穫期は6月で、生のまま食された。その約2か月後に収穫される実は、通常日干しにされ、冬の間の食料となった。

14 イエスはその木に向かって、「**今から後いつまでも、お前から実を食べる者がいないように**」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。

→いちじくの木はイスラエルの国の象徴であり(エレミヤ 24 章)、神殿 (=宮) はイスラエルと神との関係における中心でした。神によって植えられたいちじくの木として、イスラエルは神のために実を結びませんでした。また神との関係の中心としての神殿 (=宮) は、腐敗で満ちていました。ですから、救い主イエスは、その実のないいちじくの木を呪い、汚された神殿 (=宮) を清められたのです (15 節以降)。そのような取り扱いは、マルコ 12 : 9 と 13 : 2 で予告されている破壊の前触れと考えられます。

▶宮清め (神殿の清め) / 神殿から商人を追い出す (マルコによる福音書 11 : 15~18)

15 それから、一行はエルサレムにきた。イエスは神殿の境内に入り、**①**そこ (→異邦人の庭) で売り買っていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返された。

16 また、**②** (神殿を横切るとは規則で禁止されているにもかかわらず) 境内を通って物を運ぶこともお許しにならなかった。

→これは公生涯の最後の宮清め (神殿の清め)で、ヨハネ 2 : 13~22 の記述は、公生涯の最初に行った宮清めである。

→神殿はイスラエルの宗教と政治を代表する場所で、人々は神殿で神に献げる動物を購入した。大祭司カイアファの許可の下、商人たちは神殿の境内に動物の檻と籠を置き、神殿礼拝に必要な物品 (ぶどう酒、オリーブ油、塩、いけにえの動物等) を売っていた。両替人も両替に必要な巡礼者のために台を出していた。また、商人や両替人たちは客を騙し、搾取をしていた (→あざむきと搾取の温床)。



また、神殿内で通用したお金は古代ティルス (テュロス) ※貨幣のみだった。

→両替人は、神殿に礼拝に来た人たちが神殿税等を支払うのに使うため、所有する貨幣 (ローマ銀貨、ギリシア銀貨) をティルスで铸造された銀貨に両替をし、両替手数料を取った。

※ティルス (テュロス) : 聖書ではティルス (口語訳 : ツロ) として登場する。

シドンと並ぶ古代フェニキアの港市で、現在レバノンのスールである。

※マタイによる福音書 17 : 24

一行がカファルナウムにきたとき、神殿税 (→半シェケル=労働者二日分の賃金) を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。



17 そして、人々に教えて言われた。

「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、すべての国の人の／祈りの家と呼ばれるべきである。』／ところが、あなたたちは／それを強盗の巣にしてしまった。」

→イザヤ書 56 : 7

わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き／わたしの祈りの家の喜びの祝いに／連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら／わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。

→エレミヤ 7 : 11

わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる。

18 祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスをどのようにして殺そうかと謀った。 群衆が皆その教えに（心を）打たれていたのので、彼らはイエスを恐れたからである。

→祭司長、律法学者、そして長老たちが最高法院を構成し、地域の問題についての決定権をローマ帝国から与えられていた。民衆はイエスの教えを固く信じていたので、イエス殺しをうまくやらなければ、民衆は暴動を起こす恐れもあった。そして、暴動が起これば、ローマが介入し、ローマから与えられていた特権を略奪される危険性があった。

19 夕方になると、イエスは弟子たちと都の外に出て行かれた。

【参考】終わりの時代

イエス・キリストが十字架ですべての御業を成し遂げられ、息を引き取られて以降は、「終わりの時代」と呼ばれ、その贖いの時点から、聖霊がすべての人に注がれると預言されている（ペンテコステで、一部の預言は成就したが、すべての人に注がれると言う預言は、まだ成就していない）。

1. その後／わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。（ヨエル書 3 : 1a）
2. そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなので『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。（使徒言行録 2 : 16～17a）
3. キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。（ペトロの手紙一 1 : 20）